



故 加藤辰昭元理事長

加藤辰昭元理事長を偲んで

副理事長 小川 博之

中部地質調査業協会の加藤辰昭元理事長が平成24年6月に逝去されました。満70歳とあまりにも早いお別れでした。

ここに、当協会の機関誌「土と岩」61号に「加藤辰昭元理事長を偲んで」を掲載し、長年にわたる協会発展に対してのご功績に感謝と敬意を表します。

加藤元理事長は昭和17年に名古屋市千種区で生を受けられ、昭和36年に「行学一体・報徳感謝」を建学の精神とした愛知高校を卒業後、富士開発株式会社に入社され、平成2年に代表取締役役に就任以降、長きにわたり、社業の発展にご尽力されました。

業界活動は、平成3年度から中部地質調査業協会の理事に就任され平成13～14年度、17～18年度の2期にわたり理事長を務められたと同時に、愛知県支部の会長として平成4～18年度と長きにわたりご活躍されました。

この間、第一次理事長の平成13年度には全国の地区協会に先駆けて中部地方整備局との意見交換会を開催し、現在では全国地質調査業協会連合会（以降、全地連）を始めとし全国の地区協会での開催が定着しています。

第二次理事長の平成18年度には「減災害への取り組み」をテーマとした、全地連「技術e-フォーラム2006」名古

屋をメルパルクNAGOYAで開催しました。

当地区では10年振りの開催で、全地連の会長から「構成から内容まですべて近年のフォーラムの中でも特に優れていた」と高評価を頂きました。

愛知県支部では、長年の懸案事項であったコア箱の保管問題の解決や愛知県との防災協定（平成24年2月締結）にも大変ご尽力いただきました。

加藤元理事長は、平成12年度より中部土質試験協同組合の理事に就任され、平成23～24年度には理事長として、ジオ・ラボネットワーク（土質試験協同組合の全国ネットワーク）の副代表、統括者として東日本大震災支援業務の構築にも貢献されました。

協会関係の人事では時として予期しない事態となることがありました。このような事態では、加藤元理事長が、側面からのアドバイスや調整役となりバランスの良い適材適所の人事に貢献して頂きました。これは、加藤元理事長の長年の経験、人を見る観察力が特筆されているからこそと思われます。

その他にも、中部ウェルポイント業協会、全国さく井協会等でも、理事等を歴任され業界の発展にご尽力されました。



技術フォーラム2006

加藤元理事長は、生前「協会活動はボランティア精神が基本である」とよくおっしゃっていました。その原点がNPO法人沙漠緑化ナゴヤでの活動であると思います。この活動をライフワークとして取り組まれ、長年にわたり中国の緑化事業に多大なる貢献をされました。沙漠緑化以外でも中国の子供達のホームステイ事業に積極的に取り組まれ、沙漠緑化会員には年会費を納めるとお礼のはがきが届きます。そのはがきには子供達や関係者とご一緒の満面の笑顔の写真を拝見することが出来ます。このことは、愛知高校時代に培われた、報徳感謝の建学の精神に由来するのではないのでしょうか。

加藤元理事長とはあまりにも突然のお別れであったことから「ゆかりの深い者で何かしたい」という声があがり、当協会の理事長、副理事長とジオ・ラボの理事長が发起人となり、関係各位と調整を行い「加藤辰昭氏を偲ぶ会」(平成24年9月1日)をホテル名古屋ガーデンパレスで開催する運びとなりました。

しかし、我々も偲ぶ会は初めての経験でわからないことも多く色々と情報収集をしながら準備しました。

偲ぶ会には、加藤家、富士開発(株)関係者を始めとし、大学の先生や全地連関係者、協会OB、協会員、組合員総勢

74名で、中には東北や関東からもご参加いただきました。

ゆかりの深い方々からは色々な思い出話や皆様もあまりご存じなかったエピソードもご披露いただき、テーブル毎に遺影を囲んで写真を撮る等、大変有意義な時間を共に過ごさせていただきました。参加者の皆様が退出されるときに、「いい会でしたね」とたくさんの言葉をかけていただきました。

この言葉は、私どもに対してではなく、加藤元理事長が生前に協会・組合の発展にご尽力され、その結果として多大なる功績を残されたこと、ご人徳に対しての言葉であり、改めて偉大な方を失ったことを痛切に感じました。

今でも、右手を軽く掲げて「どうも～」と言いながら事務局の扉を開けて入って見えるような気がしてなりません。

最後に、これまでに頂戴した、ご指導、ご厚情に感謝申し上げますと共に、こころよりご冥福をお祈り申し上げます。

長い間お疲れ様でした、ゆっくりお休みください。